

②

学校マネジメントの進展

- 「開かれた学校」による特色づくり
(2000年前後以降からの流れ)

+

- 責任ある教育の質保証とその組織体制
(2006,7年以降からの流れ)

- ✓ 学校のウチとソトにおける,
- ✓ 財務・予算マネジメントはどれだけ進展してきたといえるだろうか？

財務・予算の視点とマネジメント

要素	マネジメントの方針、指針	アカウントビリティ (説明責任)
カネ	お金を意識するから、 有効活用と資金獲得	公的予算・財源
モノ	購入したモノを意識、 使用・活用目的の明確化	公的資産・財産
時間	限られた時間を有効、 時間をダラダラ使わない	効率性・効果性
ヒト	“その職員” (人的資源の 価値) を大切に、 資質向上の履歴 (評価)	専門性

学校事務職員に対する期待“対応力”

1. 生徒指導困難、不登校児童生徒の増加、特別支援教育の拡大など、今日の課題への事務的な対応力。
2. 学校規模の大小（教職員数の多・少）、保護者・地域の特性、教職員の状況（若手等、年代バランス）への対応力
3. 「一人職場」（小・中）にあって、日頃から自ら力量を高める対応力。

4. 事務室（高）が「チーム」となって力を高め、教員を支援する対応力（“セクシヨナリズムの負の側面”の打破）

5. 管理職（校長・教頭）の“良き相談役”になる対応力

✓ ウチにおいて「その他の職員が行う事務を総括」しつつ、ソトの共同実施等の課題にも対応。→ 高度化している。

学校事務の現状～地域の相違～

- 採用（従来通り or 一本化 or 非正規）
- 職制の改編
- 標準的職務（未整備 or 整備 or 改訂）
- 校務支援システム、ネットワーク化による効率化、管理職・教職員との協業・分担の在り方
- 予算面における学校裁量の有無・差異
- 共同実施（小・中）
- これらの組合せにあって、地方・地域によって問題状況と課題が異なる。
- 問題状況を認識・分析し、課題設定を行い、組織的・体系的に問題解決していく力

“共同実施”とは一体何なのか

- 共同実施はいろいろな地域で行われている。
- たしかに似通った部分はある。
- しかし、まるで同じということはむしろ少ない。
- 学校と教育委員会を取り結ぶ、財務予算の配分・管理システムの再編
- ここに人事管理問題が絡んでいる場合がある。
- そのひとつのモデルが「共同実施」であって、言葉の問題にこだわりすぎてはいけない。
- システムの機能、はたらきをどう問うかが重要。

“ネットワーク”的支援体制

- 「一人事務」に対するサポート
 - Cf.)病欠支援。若手支援。教頭への支援。
- 相互チェック（不適切執行の防止）
- 若手支援、ベテラン活用、有能者の処遇改善
- 均質的・均等的、全般的相互支援体制
- ✓ 事務業務改善に対する志向性
- ✓ 個人の資質力量向上への意欲と構え
- ✓ 学校のビジョンづくりへの合流
- ✓ 誰からもわかりやすいメリットのリスト集を

自治体全体の財務マネジメントの課題

- 自治体全体（複数学校）による一括購入による効率化
- 自治体全体（複数学校）による予算調整（旅費執行など）
- 学校配分予算額、学校運営費標準、ヒアリング方式等の算定ルールの整備
- 共同実施（小・中学校）によるネットワーク的支援体制の構築
- ✓ 今後いっそう求められる学校間連携の観点からの位置づけも